

授業における教師の「指名」について ～全員参加を目指して～

授業で教師が子どもを指名する意図は！？

授業では、「ねらい」の実現に向けて、子どもたち「全員が参加する」ことが大切です。「全員参加」を見とるめやすとして、一般的には子どもたちの発言の有無があげられます。その発言を促すのが、教師の発問です。そして、子どもたちの発言を授業に生かすのが、教師による「指名」となります。

つまり、「全員参加」に向けたよりよい授業の流れをつくるために、目的に応じた教師の「指名」が必要なのです。「指名」には、授業を組み立てる役割があります。

【指名が必要な場面】

- ①機械的に発言させるとき(例:答え合わせ等)
- ②感想や意見、体験等を発言させるとき
- ③考えを深めたり、広げたりするとき
- ④学習意欲を高めたり、自信をもたせたりするとき

『指名』の工夫を！ ～全員参加に向けて～

《 (+)よさ, 効果 (-)考慮する点 》

✿ 挙手指名

- +) 発表意欲への対応, 意欲づけ
-) 特定の子に限定される危険性, マンネリ化, 挙手を待つことで授業のリズムが崩れる

✿ 順番指名(列や番号順)

- +) どの子にも発言機会を保障, 緊張感を生む
-) 話し合いを深める工夫必要

✿ 意図的指名(挙手している子・していない子に関係なく)

- +) 発言により話し合いを深めたり広げたりする, 集団づくりの視点で活用(自尊感情を高める)
-) 個々の考えや理解度の把握, 教師の学習過程の構想が明確であることが必要

✿ 班(グループ)指名

- +) 子ども同士の「かかわり合い」を育む
-) 学習規律の徹底が必要

✿ 相互指名

- +) 子ども同士の「かかわり合い」を育む
-) 人間関係に影響される(学習規律の徹底)

✿ その他

- ① **ハンドサインを活用した指名** +) 発言のつながりを意識して指名することが可能
・「賛成」「反対」「付け足し」「質問」等
- ② **挙手ではなく起立指名** (挙手指名と同様)
- ③ **自由発言** +) 発表意欲への対応, 意欲づけ
-) 本時のねらいに向けた教師の意味づけや整理等が必要



授業の質を高める上で、「意図的指名」は欠かせません。「わかる」「できる」授業に向けて、次の点を意識して意図的に指名することが大切です。

- ・子どもの考えを把握し、その考えを関わらせて授業の内容を深める
- ・子どもの学習に向かう姿、ノート記述の内容等を学級全体に広める
- ・集団づくりの面から、その子のがんばりやよさを認める



授業において子どもに発言させる主な方法が、教師の指名です。中心的な発言の方法は、声に出して(音声)発言するものですが、次のような方法もあります。

- ・ノートに「書く」ことで発言する
- ・表情で発言する

こうしたことも活用することで、全員参加の授業がより可能となります。